

デーリー東北  
2024年(令和6年)8月7日(水曜日) (3)

# 学术交流の輪を広げたい

## 八工大 海外の国際ワークショップに参加

八戸

八戸工業大(坂本禎智学長)の国境を越えた学术交流の輪が、新たな展開を迎えている。7月に同大と新疆大(中国)、国立ユーラシア大(ENU、カザフスタン)が一堂に会する「国際ワークショップ」が新疆大キャンパスで初めて開催された。建築・土木をテーマに互いの研究成果を発表し合う機会が、来年は八工大が会場となる予定。関係者は「国際交流で得た知見を地域貢献に生かしていく」と力を込める。(上條哲洋)

### 建築・土木テーマ 研究成果を発表

八工大は1988年から新疆大の研究者を受け入れ、2003年に交流協定を締結した。04〜22年に6人が大学院博士後期課程で学び、工学博士を取得している。後、教員による講演会、国際会議などの相互交流が続き、2017年に交流協定を締結。19年には両校をつなぐジュスアベコフさん(八工大名誉教授の称号が授与された)に八工大名誉教授の称号が授与された。

ENUとの縁は1991年、アスカル・ジュスアベコフさん(現ENU教授)が八工大で地盤工学の研修を受けたことだった。その縁で、23年にジュスアベコフさんが3大学の交流活動を提案。国際ワークショップを



国際ワークショップで講演した長谷川明名誉教授 (八戸工業大提供)



国際ワークショップに参加した外里健太助教(左)

「青森県の橋梁の現状と対策」、外里助教は「八戸市の地盤情報データベースを用いた豪雨による斜面災害のリスク評価」について語った。外里助教は「それぞれの研究は似た部分もあれば、それぞれの地域性や気候を反映した部分もあり、視野が広がった」と手応えを感じた様子。長谷川名誉教授は「互いの知見の中には違う地域でも活用できるものがある。さまざまな角度から意見をもらえる機会にもなった」と今回のワークショップの意義を強調。来年の自校開催へ向けては「工学、デザイン、地域の要素をテーマとして、さらに交流の輪を広げたい」と話した。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。